

ご 挨 拶

下諏訪レガッタ40周年記念事業
実行委員長 高 橋 昇



昭和57年10月24日(日)第1回下諏訪町民レガッタとして開催された小さな大会は、40年の時を経て、第40回下諏訪レガッタとして大きく成長を遂げました。第1回のその時に、その後30回、40回と回数を重ねて諏訪湖周のたくさんの人にボート競技の楽しさを伝える大切な大会になろうとは想像できなかったことです。

昭和から平成へ、そして令和と改元された令和3年、得体のしれない新型コロナウイルス感染症のために記念大会が中止になることもまた誰も予想しなかったことです。

私は、第1回から参加させていただき、ボート競技のとりこになりました。今風に【ボートにはまった】と言ったほうが伝わるのでしょうか。ボート競技の魅力は、スーパースターがいなくとも、チームワークで勝利を呼び込み、皆がヒーローになれるところです。「一艇ありて、一人なし」その言葉とともにまた、仲間にも恵まれ40年が、あっという間でした。

40年の節目を祝うために立ち上がった実行委員会により、記念誌の発行や、町漕艇協会ホームページのリニューアル、記念のTシャツやポロシャツの作成がすすめられました。さらに、感染症対策を万全に式典も準備がすすめられ、皆で40年を祝う準備は整いました。ご尽力いただいたみなさま、下諏訪レガッタを支えてくださっている多くのみなさまに感謝し40周年を祝いたいと思います。

そして、10年後下諏訪レガッタ50周年のその時に、諏訪湖でボート競技を楽しむ人をどれだけ増やせているのか、40周年のこの日からまた湖周に集う仲間づくりを始めましょう。



(町漕艇協会ホームページより)

ごあいさつ

下諏訪町漕艇協会会長
西村 和 幸



下諏訪レガッタが今年40回を迎えることができましたことは、関係団体をはじめ多くの方々のご理解ご協力の賜物と感謝申し上げます。

顧みますと1982年に第1回大会を開催し、以後10周年ごとに記念事業を実施してまいりました。2011年の30周年記念大会は台風による荒天でレース中止を当日決定しましたが、記念式典・祝賀

会は盛大に開催でき、ホッとしたところでした。

昨年は世界的に新型コロナウイルス感染拡大の中、レガッタ参加クルーは減少しましたが、十分な感染症対策を講じて無事開催できましたので、今年の40回大会も同様にと、役員一同実行委員会を組織して準備を進めてまいりました。しかし、感染症が昨年とは比べものにならないレベルで拡大し、下諏訪レガッタ40回の歴史の中で初めて事前中止となりました。時節柄祝賀会もできず、さみしい限りですが、事実は事実として記録に残していきます。

この10年、ボートに関しましてもいろいろありました。コース内に水草（クロモ）大量発生、生涯スポーツも考慮して下諏訪レガッタに「グランドシニアパドル」の種目を新設、下諏訪町が「健康スポーツ都市」宣言、水上防災拠点・新艇庫「AQUA未来」の完成、コロナ感染症による生活様式の変化、大雨により旧栈橋が1か月にわたり使用不可など良いことや悪いことがありました。

コロナに打ち勝ち、かつての生活に戻れるかどうか見通せない中ですが、こうした時だからこそ初心に帰り、漕艇の普及に傾注して、50回、60回と健全に発展できますように努めてまいりますので、これからも皆様の更なるご支援ご協力をお願いしましてあいさついたします。

お祝いのことば

下諏訪町長 宮坂 徹



下諏訪レガッタが40周年という節目の年を迎えられましたことに、心よりお喜び申し上げます。

この大会が「誰でもボートを楽しめる大会」として定着し、飛躍を遂げてきたことは、町漕艇協会をはじめ歴代大会関係者の皆様のご尽力、ひいては広くボートを愛する人々の熱意と努力の賜であり、心から敬意を表する次第であります。

町内外から数多くのクルーがエントリーされ、初めてボートを経験される方から、毎年好成績を目指して仲間とともにハードな練習を積まれる方まで、また年代も幅広い方々に参加いただいております。大会当日は、全国市町村交流レガッタへの出場権を目指して熱戦が繰り広げられるとともに、選手の応援や、仲間との交流など、大会を思い思いに楽しむ人々で、諏訪湖畔は大変賑わいます。

下諏訪町は昨年、下諏訪ローイングパーク「AQUA未来」を整備するなど競技環境を整え、本年は東京2020オリンピックアルゼンチン代表、イタリア代表、パラリンピック日本代表の事前合宿が行われ、「ボートの町」として、またひとつ大きなレガシーを築くことができました。

競技関係者のみならず、広く住民の皆様健康づくりとふれあいの場としてボートに親しんでいただけるよう、今後とも普及に取り組んでまいります。

結びに、このたびの40周年記念事業にご尽力いただきました実行委員会の皆様をはじめ関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、来年以降もこの大会が盛大に開催されますことをご祈念申し上げお祝いのことばといたします。

下諏訪レガッタ40周年記念

下諏訪町議会議長 森 安夫



昭和53年やまびこ国体のレガシーとも云える下諏訪レガッタが、40年の歴史を重ねたことに敬意を申し上げます。おそらく町民にとってあまり馴染みのなかったと思われるボート競技が、下諏訪町に根付き、町民の生涯スポーツとして定着したことは、下諏訪レガッタを40年に渡り継続してきた、下諏訪町漕艇協会の皆様のご尽力の賜物であります。正に、継続は力なりです。

私も選手として30年以上前に参戦していましたし。町議員になる前は、湖畔で地元の仲間チームの応援のために、食事やつまみを提供するお手伝いなどをしながら、朝からお祭り気分、大きな声援を送らせていただきました。

また、最近は議会チームとして参戦を余儀なくされたわけでありまして、さらに全国市町村交流レガッタにも出向き、少なからずボートのことを知りました。今では冬の運動不足解消に、艇庫や体育館で人目を忍んでエルゴメーターを漕ぐようになりました。

わが諏訪湖がもたらしてくれた、ボートの町下諏訪。下諏訪レガッタが、諏訪湖への恩返しとして、諏訪湖の浄化、諏訪湖の賑わいとなり、今後も末永く継続されることを願います。

残念ながら、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策から、大会の開催がままならなくなっております。大会主管の町漕艇協会の無念が伝わってきます。是非50回、60回に向け、大会開催へのご尽力をお願いいたします。

下諏訪レガッタ40周年によせて

下諏訪町スポーツ協会会長 北 澤 裕



この度、下諏訪レガッタ40周年記念事業として記念誌の発刊の運びとなり、下諏訪町漕艇協会の長年にわたる輝かしい歴史に対しまして、心よりお祝い申し上げます。

1982年より、スポーツ協会に加盟以来、スポーツ普及・振興にご協力いただき、ボート教室、講習会、また指導者の育成等下諏訪スポーツの為に貢献されましたことに深く感謝申し上げます。

また、下諏訪レガッタにつきましても町民だけではなく、諏訪地方、長野県、全国のボートを愛する人達が下諏訪へ集結し、レースを楽しみ年々大会が成長してまいりました。ここに至るまでには、諸先輩の皆様、歴代の漕艇協会の会長はじめ役員の皆様、各団体の長年のご苦勞された結果がこの大会を大きく成長に導いたと思います。

現在では、町の御理解のもと各種スポーツ施設の見直しがありAQUA未来という素晴らしい新艇庫も昨年完成し、増々ボート人口が増えることと思います。これからも町の要として下諏訪町漕艇協会が、スポーツ普及、振興に貢献され増々発展させることを心より祈念致しまして発刊のお祝いの言葉といたします。

「下諏訪レガッタ40周年によせて」

長野県ボート協会 理事長 木 下 芳 樹



下諏訪レガッタ40周年記念、誠におめでとうございます。選手皆さんと共に創る大会として持続されたご努力と熱意に心から祝意を表します。

昭和53年やまびこ国体を契機に「まち興し」をテーマに始まった「下諏訪町民レガッタ」は全国からのクルーも迎える「下諏訪レガッタ」として発展されました。本大会は地域活性化とスポーツイベントの関係性に注目する全国の市町村からのモデルとなり、各地の住民レガッタ開催の手本となりました。また、全国ボート所在市町村協議会

発足の礎ともなり、重要拠点として活躍されておられます。

ボート競技は公共施設や共同で使う艇を使って行われます。大会前の練習時間は限られレースまでの準備を、参加者間でシェアし工夫して行わなければなりません。一人強く漕げても艇は真直ぐ進みませんし、漕ぎが合わなくては速く進めることは出来ません。究極のチームスポーツと言われる所以はここにあり、その奥深さに魅了される人が集い学んでいると感じます。

また自然環境の中で行われるため、様々な条件に影響を受けます。近年大会時期に激しく繁茂する水草に対しても対応に苦慮されています。コース内の水草はオールや艇の抵抗となり、フェアなレースが出来ないと、早朝仕事前に水草刈りを誰に言われるもなく黙々と作業に当たられる役員選手さんの姿があります。誠のボランティア活動に支えられています。

私たちは下諏訪ローイングパークという素晴らしい環境を整備いただきました。「レガッタ」という言葉はイタリア語の語源で「競い合う」という意味を持つそうです。偶然にも2020TOKYOオリンピックにイタリア代表チームがこのローイングパークでの事前キャンプの実施を希望されました。選手監督は皆このパークを大いに気に入ってくれました。我々はこの不思議な縁を感じつつ未来に向け「下諏訪レガッタ」を大切に守る使命があると考えます。共に実現しましょう。